

末枯野美しき晩秋の候、皆様におかれましては、ますますご健勝にお過ごしのことと存じます。
平素は工業会の事業に格別のお引き立てをいただき、厚く御礼申し上げます。

10月の各委員会・WG・事務局の活動状況を報告いたします。

日付	委員会・WG 他	実施項目
10月8日	総務広報	朝日新聞広告出稿打合せ、11月5日朝刊掲載
10月13日	総務広報、技術品質 安全衛生、用途開発	10/26に行う合同勉強会の事前打ち合わせ
10月25日	総務広報、事務局	プラ工連の「プラスチック資源循環促進法に関する 経産省様の説明会」参加
10月26日	総務広報、技術品質 安全衛生、用途開発	合同勉強会の実施

11月の各委員会・WGの予定を報告いたします。

11月11日	総務広報・事務局	東北大学とのRPFについてのヒアリング
11月11日	外国人技能実習	試験監督者工場試験体験セミナー（会場；日本ウエスト様）
11月18日	外国人技能実習	試験監督者工場試験体験セミナー（会場；関商店様）
11月22日	海外事業支援WG	定期会合（進捗状況等情報共有）

・各委員会合同WEB勉強会の開催致しました。



開催会場の様子



開会の挨拶をする
長田会長

司会進行の
加山総務広報副委員長



令和3年10月26日に会員企業様100名以上の参加の下、実施することが出来ました。
それぞれの講義の中で質問がありました内容についてご報告いたします。

① 「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」の政省令等の説明

Q、再資源化についてケミカルリサイクルで油化された状態では再資源化にはならないのか？

A、油化した状態ではなく、一部でもプラスチック原料にする状態すること

Q、熱回収の優先順位の中で化石資源を代替するエネルギーリカバリーのことでですか？

A、再資源化等の中では化石資源を代替することを前提にしているがサーマルリサイクルも含まれる

Q、排出事業者が再資源化等で行う場合も再資源化計画が必要か？

A、再資源化計画の義務はないが、多量排出事業者についてはどのように再資源化等を行うのか計画を策定して情報公開を求めている

Q、ケミカルリサイクルプラントが今後実装されるのでしょうか？技術的や経済的合意性の見込みはあるのか？

A、ケミカルリサイクルも大事だがさまざまなリサイクル手法を用いて行かなければならない。効果的、効率的な技術開発に政策的な支援して参りたい

Q、今後法解釈の手引書はいつ頃出来るのでしょうか？

A、拙速に出すのではなく、年内公示後、Q&Aやガイドライン等で情報公開を積極的に行っていきたい。4月までには提示していきたい

Q、再資源化とは、マテリアルリサイクルとケミカルリサイクルですが、これに対する優先順位はありますか？

A、マテリアル、ケミカルでの優先順位はなく、再資源化の実績成果が出るようにしたい

Q、年間250tの排出実績に有価売却したプラの実績は含まれますか？

A、事業活動で出てくるものは全て管理してもらいたい。廃掃法に即した運用を基本としているので今後わかりやすく提示していきたい。

② 「廃プラスチックに対するケミカルリサイクル技術(モノマー化/油化/ガス化)について」

Q、炭素循環のためにはCCUSの技術開発が急務だと思いますが開発は進みますか？

A、CCSについてはプラント導入の実績がある。地下や海底に埋めることについては懸念がある。CCUについては鉱物化(Mg・Ca)する開発が産学共同で進められている。

Q、ケミカルリサイクルはかなりのエネルギーが必要と思うが原油から製造するプラスチックより環境性能が良いのですか？

A、ケミカルせずに焼却した場合のGHGを控除した場合は化石資源から製造するよりも環境負荷は少ない。

Q、3つのケミカル手法の中でより雑多な廃プラが原料になるとの理解で良いか？

A、ガス化については多少の金属、塩ビは5~10%の混入しても大丈夫。

Q、年間の処理量・生産量の経済性が確保できる規模はどの程度ですか？

A、油化については1~2万トン、ガス化、5~7万トン程度が基準です。

Q、ケミカルプラとは容器包装プラしかないが今後産廃プラを原料としたプラントを建設する案件はありますか？どの辺に建設する計画がありますか？

A、今後は産廃プラも取り組みたいが、状態においては事前に分別(ソーティング)が必要なケースもある。場所については色々なケースが想定される。水素利用であれば港湾関係がある。

Q、容器リサイクルその他プラの入札単価以下でも採算は取れそうですか？

A、一概にいくらで採算がとれるではなく、出来上がった製品の販売価格にも影響される。海外に比べ日本は処理費を頂けるのでやり易いと思う。

③ 「RPF を取巻く環境と固形燃料焚きボイラについて」、

Q、固形燃料を燃焼する上で製造者が特に留意する点はどのような点でしょうか？

A、一般的にはあまり大きな径は燃焼時間が掛かるので小型ボイラー(2～3 t/h)では難しい。

Q、装置で一番高い部分はどこですか？

A、燃焼炉と熱交換機です。

④ 「AI 火花検知システム「スパークアイ」リチウムイオン電池混入による発火検知システム」

Q、ハウジングの汚れ対策はオプションがない場合の清掃頻度はどのような感じですか

A、含水率の高いものや汚れ付着の多いものはフィルム式やエア式を装備しなければならない。

⑤ 「計量はかり」商品紹介、生産管理上、役立つ計量管理システム

Q、時間3トンのRPFを搬送いたしますが計量誤差はどのくらいありますか？

A、ベルトの速度にもよるが50分の1や100分の1です。

以上になります。勉強会中にありました質問について整理させて頂きましたが、その他気になったことがありましたら事務局にお問い合わせください。宜しくお願いいたします。

尚、当日の録画ビデオにつきました当会HP上の会員専用ページからご覧頂けるよう準備いたします。暫くお待ち頂きますようお願い申し上げます。

又、この度はプラ新法について、経産省側に講師を依頼いたしました但工業会の要望に対しても耳を傾けて頂いた関係でお願いした次第です。講師の吉川課長補佐様とは引き続き、法解釈の手引きについて工業会の意見を具申していきたいと考えております。

又、日揮HDの田中様にはケミリサ手法についてお話いただきましたが、廃プラ排出量が850万トンあるなかで今後プラント実装が期待されると思いますが、皆様には影響度を考察して頂ける機会になっていただけたら幸いです。

次に日本ガス開発の大坪様にはボイラーの生立ちから専門的な技術、知識の理解が深めることが出来たと思われます。地産地消のようなRPFの利用方法も有効的な印象を得ました。

次のフジテックス寺原様のAI炎検知カメラの紹介は中間施設での初期消火に役立つツールとして導入しやすい補助金も含め提案頂けると思ひます。

次にJFEアーバンテックス飯田様の計量装置の説明でしたが、時間当たり等自動で重量把握できると管理面で効率的な運用が可能になると期待が持てました。

各委員会が合同でこのような勉強会が開催できたことに感謝申し上げます。

年明けには技術品質委員会開催の施設見学も計画しておりますので、詳細が決まりましたら皆様にご案内できると思ひます。

コロナ感染も落ち着き、外国人技能実習生も一部の国から再開されて来ていると聞きます。

経済活動も徐々に動き出し、以前の日常に戻り始めて参りました。

秋も深まり日の入りが早くなってきて、何か気ぜわしく感じる時期でございますが慌てず、焦らず、安全第一でお仕事にご活躍くださいませ。

(文責；田墨啓治)